



A L P S C A R E E R

＜シリーズ連載：今求められるキャリア開発 第46回＞

再任用で働く 私のリアルな心境

再任用職員って、なに？
町田市の再任用制度とは

皆さんこんにちは！ 私は2014年3月31日付で長年勤めた町田市役所を定年退職し、引き続き4月1日から再任用職員として働いています。

早いもので10カ月が過ぎようとしています。いま考えると、定年を迎える最後の1年もあつという間でしたが、月日の経つのは本当に早いものです。若いときは1日、1週、1月そして1年が長く感じたものですが、歳を重ねるにつれ、特に最近、月日がとても速く流れていきます。どうぞ現役の皆さんも1日1日を大切に、仕事に興味に充実した毎日を送っていただきたいと思えます。とは言っても私もまだまだ人生現役、これは私自身にも言えることです。

さて前置きはこのぐらいいにして、まずは私がお世話になっている町田市の再任用制度

についてお話しします。

私は以前、職員課長を務めていたもので、少し詳しくお話ししたいと思います。

町田市では、2001年に「町田市職員の再任用に関する条例」を定め運用を開始しました。当初は週4日勤務の短時間勤務の再任用職員のみで、週5日勤務のフルタイムの再任用職員はいませんでした。

定年退職後に再任用を希望する場合、フルタイムの勤務を選択すると、共済組合の組合員が継続され、退職共済年金の報酬比例部分の支給がなくなります。このため、週4日の短時間勤務を希望しても給与と年金を合わせれば、収入的には十分フルタイム勤務の給与水準を維持でき、しかも勤務は1日少ないこととなります。この結果、必然的に週5日勤務の再任用を希望する職員はいませんでした。

町田市の場合、管理職も含め再任用を希望する職員は、ほとんどが庁内の各部署に



平野 清

町田市市民部市民協働推進課
担当課長（地域担当）

【ひらの きよし】1954年2月東京都八王子市に生まれ、中央大学卒業後、町田市役所に入職。総務部総務課主幹、市民部市民協働推進課長、総務部次長兼職員課長、市民部長を歴任し、2014年3月退職。引き続き同年4月から再任用職員として現職。

配属されます。その際、再任用職員は職員定数に含まれることとなります。ここで問題が生じました。定数の中ですから、当然職場は戦力として計算できる週5日勤務のフルタイム職員を希望します。ところが前述のようにほとんどの職員は週4日勤務を希望するという状況でした。

このような再任用職員本人の希望と受入れられる職場とのギャップをどのように解消するかには当時は頭を悩ませました。再任用者として登用するなど、いくつかの手は打ちしましたが、フルタイム希望者を増やせるような、根本的な解決にはなりません。

しかし、私たちの世代から退職共済年金の報酬比例部分の支給が61歳からとなり、順次65歳まで引き上げられることになりました。無収入期間が長くなることで、今後は徐々にフルタイムで勤務する職員が増えていくのかなと思っています。

超高齢社会を迎え、60歳を超えてもまだ



担当課長として
課内打合せにも参加

まだ現役として頑張らなければいけない時代になりました。

ちなみに2014年4月1日現在、再任用職員は275名います。フルタイムで勤務する職員は38名おり、その内13名が課長職、8名が係長職として任用されています。

**再任用を希望するかしないか。
わがごとくしたものか**

今回の再任用に当たっては、退職の前年の2013年7月に職員課による意向調査が、そして同年11月に再任用希望者に対する面接が実施されました。

再任用の形態としては、週4日の短時間勤務と週5日のフルタイム勤務が選択できました。いずれも1日の勤務時間は正規の職員と変わりません。定年退職後の環境は前段で少し触れたとおりです。さてどうしたものか、しばらく悩みました。再任用職員の給与面での条件も、前段で少し触れましたが、部長職の職員には原則、課長職である担当課長のポストが用意されます。担当課長はライン職の課長とは異なるスタッフ職の課長であり、特定の業務を担当する管理職です。幸いにも私は市民部長だったため、フルタイム職を希望すれば、この職で再任用されます。後ほどまた触れますが、最終的には市民部長という職だったことが、退職後の進路を決定する決め手になりました。定年退職後の生活を考えたとき、子どもはすでに独立しており、働かなくても家内と

2人何とか暮らしていける状況でした。同居の両親も自立して生活しており、その面での心配もありません。ただ、高齢による介護の問題が日に日に近づいていることを感じていました。私にはやりたいこともありませんし、もう役所勤めはいいかなと考えていました。

退職して私がやりたかったこと

私には地元の八王子市に、長い付き合いの親友がいます。

その中の1人で八王子市の山奥、おんがた恩方というところに住んでいる友人がいます。地元の方公務員だった彼は代替わりに伴い、勤めながら山林や農地の管理をしていました。ところが貸していた農地が、耕していた方の高齢化により次々返還されました。そこで、返された農地を使い、3人の仲間と野菜作りを始めることにしました。20年前のことです。なにしろ皆サラリーマンです。農業のイロハもわかりません。そこで本を片手に野菜作りを始めました。土日を使った家庭菜園です。

1年を通し、茄子、胡瓜、トマト、ピーマン、じゃが芋、トウモロコシ、葱、白菜、ブロッコリー等様々な野菜を育てます。栗林もあります。種を蒔いたり、苗を植え、肥料や水を与え最後に収穫をする。作物が成長する姿を見て、季節を感じ、食べ物の旬を知る。土の力、自然の恵みの素晴らしさを知りました。寒い冬に肥料をまぜて土づくり、



仲間たちと野菜づくりをするのが生きがいの一つ

暑い夏には猛烈に育つ雑草を毎週のようにむしります。収穫をするときには、それまでの苦労を忘れ、大きな満足感、達成感を得ます。ただ、スーパーで野菜の価格を見ると、あまりの安さにガッカリしますが、それでも、自ら土にまみれて作った安心・安全、そして新鮮な野菜を、旬の時期に食べられる幸せは、何ものにもかえられません。

先ほど家庭菜園と言いましたが、実は耕作面積は、年々増えて今では5反(1500坪)ほどあります。とても土日だけではやり切れません。退職したなら皆で本格的に農業を始めたい、野菜だけではなく、果物も作ってみたいと思っていました。もしここで退職したなら、気が置けない仲間たちと、畑のそばにログハウスでも建て、自然の中で、昼間は農作業、そして夜には収穫物をつまみに酒を飲もうと話していました。



「地区協議会」では様々な課題について話し合いが行われます

なんとなく再任用で担当する仕事が見えてきたよっな

話を意向調査と面接の時期に戻しましょう。

町田市では他の地方公共団体と同様に、基本計画を定めています。「まちだ未来づくりプラン」と呼んでいます。その中で、5つの柱となる「未来づくりプロジェクト」を掲げています。真つ先に掲げられているプロジェクトが「地域社会づくりを基本とするまちづくりプロジェクト」です。このプロジェクトは、市民部の市民協働推進課が担当しています。

担当部長も置いて取り組んできた重点事業です。地域社会づくりを進めるために「町田市『協働による地域社会づくり』推進方針」を策定しました。この推進方針に掲げる町田市が目指す「地域社会」の実現に向け、推進計画も策定されました。つまり基本計画に基づき推進方針が定められ、その実現のために推進計画が策定されている、行政が定めるよくある構図です。その推進計画の中心が、町内会・自治会などの「地域コミュニティ」や、民生委員児童委員協議会・青少年健全育成地区委員会・高齢者支援センターなどの「テーマコミュニティ」を中心とした地域ネットワークの構築です。このネットワークをこれからの地域社会づくりの中心に置こうと考えました。

様々な地域の活動団体が参加するネットワーク、これを「地区協議会」と呼んでいます。この協議会の中で、地区で取り組むべき課題

を検討し、地区の中の様々な団体が連携してその地区の特性に合った、個性を活かしたまちづくりや事業に取り組んでもらう、地区で解決できることは地区で解決し、行政と協働で解決できるものは協働で、行政がやるべきことは行政が行うというものです。具体的には子ども・高齢者の見守り、地域の防犯・防災体制づくり、環境美化等行政だけでは目が行き届かない活動があげられます。

少し長くなりますが、「地区協議会」には課題解決のための事業費として補助金を交付します。また、「地区協議会」が地区の様々な団体や行政と円滑に連携が取れるよう、経験を積んだ「地区を担当する職員」(以下、「地区担当職員」という)を配置します。「地区担当職員」が窓口となつて、地区と市との連携調整をする。さらに、とかく縦割りと言われる庁内各部署間の調整も行うというものです。

この経験を積んだ「地区担当職員」を誰にするかが問題でした。確か当面の部の施策を、部別に市長・副市長と話し合うサマリーレビューのときだったと思います。「地区協議会」と「人員配置」が話題になりました。私はプロジェクトにある「地域社会づくり」推進のためには、6つある市民センターのコミュニティ部門の強化が必要で、そのためには、センター長の下にその地域を担当する正規職員として、担当課長と担当職員が必要であると考えていました。定数増の要望も出していました。市長は地区担当職員には管

理職を置きたいが、当面経験のある再任用職員として、部長経験者を担当課長として置くのはどうか、と言われました。副市長はニヤニヤしながら私の顔を見ていました。

私は、これはまずいと思いました。再任用を希望するにしても週4日、場合によっては畑に専念して自由気ままに人生を送ろうと考えていました。管理職となると週5日勤務です。草ぼうぼうの畑が目につかびました。私はその場で、再任用は週4日を希望していますと答え、今年度退職を迎える部長仲間の内、適任と思う何名かの名前をあげました。職員課長時代の人事の調整と同じ感じで話しました。

その後打ち合わせ等で、顔を合わせ、地区担当職員の話になると、なんとなくお前がやるんだろう、という雰囲気になっていました。そのたびに私は週4日です、と言っていました。

再任用を希望した理由。お任せすると言っていてしまっただけ

いよいよ11月の再任用面接が迫ってきました。週4日か週5日かはまだ迷っていましたが、再任用は希望しようと思っていました。理由の一つはいきなり規則正しいサラリーマン生活から、自由気ままな生活になったとき、体調や心の維持ができるのか、やはりソフトランディングする期間が必要ではないかと考えました。たまたまかもしれません、最近先輩方で定年退職後に直ぐ亡くなられ



市民の方々の意見を反映するために開かれる「市民ワークショップ」

の方が続いたことも理由かもしれません。二つ目として、働くという経済活動を通じて、また、地域社会づくりという地域活動を通じて、まだまだ社会に貢献ができるのではないかと考えました。

三つ目として、これが大きな理由ですが、40年近くお世話になった町田市に、これまでの経験を還元しなくて良いのか、これは、管理職試験を受験するときも思ったことですが、市役所で働くことで給料をもらい、家族を養うことができた。これを何らかの形で返さなければいけない。人間には年相応の責任があり、誰かがその責任を負わなければいけない。これは、若い職員に昇任試験を受けるよう勧めるときに、自ら言ってきた言葉でもありました。まして市民部長として、また以前は市民協働推進課長としても、市民協働の仕事に関わってきた者の責任ではないか、今まで地域の人たちと接することで培ってきた、人脈と信頼関係を活かすべきではないかと自問したとき、面接の席で「週4日か週5日かは、お任せします」と答えていました。

再任用と働くごんごん思い

私の役職は市民部市民協働推進課担当課長（地域担当）です。2014年3月31日の月曜日に退職辞令をいただき、翌4月1日の火曜日に再任用職員としての辞令を拝命しました。3月議会の直前に4年に一度の市長・市議選があった関係で、この年の

3月議会の最終日は3月28日の金曜日でした。なんと慌ただしいことか。議会が終わって土日の2日間ですべての整理をしました。

翌1日になっても、家を出る時間、電車に乗る場所、職場に着く時間、勤務場所も昨日と同じ、部長室から少しだけ離れた机で、職員の色づれも見慣れた顔が並んでいます。本当に現役時代と同じで、代わり映えのない定年退職でした。

休む間もなく、心の整理もできず、気持ちの切り替えが難しかったのですが、実際のところ再任用職員の立場は、前職とはだいぶ違いました。正直肩の荷が下り、ほっとした気持ちでした。

町田市の場合、再任用の担当課長は議会には直接関わりません。議会に出席しなくなりわかったことですが、現役時代は議会に出ることは当たり前と思っていました。今の精神状態を見ると、議会でのやり取りのストレスは相当あったのだと実感しています。

新しい部長や課長、市民協働推進課の職員は、元の上司がそばにいるわけですから、私よりもやりにくいと思います。そこで心がけていることは、「断定的な言い方はしない」「自分からは過去のことを語らない」「職員の話は口を挟まずよく聞く」「手法や内容について最初に自分の考えを言わない」。自分が出ないで、一歩下がった位置で、年下の現役職員の仕事をやりやすいように努めています。時々我慢ができなくなることもあります。ぐつと飲み込んで、それとなく、

何気なく自分の思いをアドバイスしています。

地域担当の仕事は、町内会・自治会の方々と、地域で様々な活動をしている方々と行政を繋ぐ役割です。スタッフ職ですから部下はいません。この4月から3名の部長経験者が地域担当課長として市民協働推進課に配属されました。10の地区の協議会立ち上げに、3人で地区を兼務しながら奔走しています。幸いにも現役するときから関わってきた仕事です、違和感はありませんでした。

7月からは私も地域のセンターに勤務場所を移しました。より地域に近い場所、地域に密着した活動ができるようになりました。地域の人も行政の本気度を感じてくれています。地域の集まりに顔を出し、相談事を受ける機会も増えています。そんなとき、課長と話す機会も増えています。そんなとき、前職や役所での経験がとても役に立っています。地域も行政も顔見知りばかりですから、やりやすい限りです。

今はやりがいもあり、モチベーションも高い状態を保っています。なにしろ、町田市の基本計画の5つの柱の1番目ですから、頑張らないわけにはいきません。

今後も現状に満足せず、何かに挑戦し続けるチャレンジ精神を常に持っていたいと考えています。そういう意味で、今回いただいたテーマで私の経験を文章として書くことも、私にとってチャレンジの一つだったと思います。拙い文章を最後までお読みいただき本当にありがとうございました。